

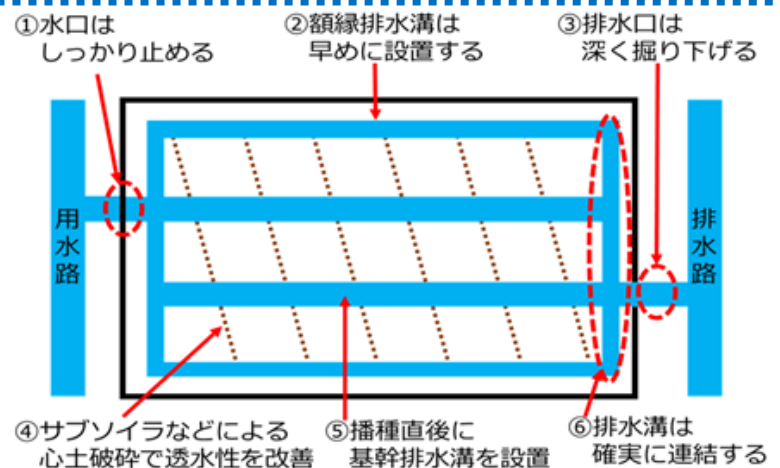
大麦の収量と品質向上のカギは、スタートダッシュ！排水対策等の基本技術を徹底し、適正な苗立数を確保することにより、高収量・高品質大麦の生産を目指しましょう！

1 排水対策の徹底

～ 降雨で圃場の土壌水分が高くなっています。
圃場の乾きを促すため、稲刈り後、速やかに額縁排水溝を設置しましょう！ ～

排水対策のポイント

- 水口はしっかり止める。
- 額縁排水溝は、幅30cm、深20cm以上の
しっかりとした溝に仕上げる。
- 溝に水が溜まらないよう、排水口を低く掘り下げるとともに、
排水溝と確実に連結する。
- 透水性の向上のため、心土破碎を実施する。
- 播種直後に基幹排水溝を設置する。



2 土づくり・基肥

～ 土づくりの実践や的確な基肥施用で適正な生育量に誘導しましょう！ ～

表1 土づくり資材の目安

資材名	施用量(10a当たり)
苦土石灰	100～140kg
発酵鶏糞ミックス	60kg

石灰質資材の散布で
pH6.0～6.5
を確保！

表2 基肥の目安

区分	基肥名	施用量(10a当たり)
基肥一発	LP大麦48号	45kg
分施栽培	燐加安15号	40kg

3 適正な播種

～ 播種は9月末～10月上旬を中心に。遅くとも10月20日頃までに完了しましょう！ ～

(1) 種子消毒

- ・ 雲形病等の発生を防ぐため、種子消毒(※)を必ず実施して下さい。
- ※ 「ベンレートT水和剤 20」を乾燥種子重量の0.5%湿粉衣
(乾燥種子 10 kg 当たり 200ml の水を加え、薬剤 50g を均一に混ぜる)

除草剤を的確に
使用し、
生育量を確保!!!

<除草剤を使用>



<除草剤不使用>



(2) 播種作業

- ・ 播種は必ず圃場が乾いた状態で行い、一連の作業(耕起・播種・作溝)は1日で完了させましょう。
- ・ トラクターの速度を低速にし、できるだけ細かく碎土しましょう。
- ・ 雑草発生が多い圃場では除草剤を的確に使用し、生育量を確保しましょう(表3)。

(3) 播種量の目安

- ・ 播種時期・播種方法に応じた播種量で目標苗立数を確保しましょう(表4)。
- ・ ドリル播きでは、深播きにすると出芽揃いが遅れ、分けつの発生率が低下するので、播種の深さは3cm程度に設定してください。

表3 雑草防除 (ドリル播き限定)

除草剤名	使用量(10a 当たり)	使用時期
トレファノサイド粒剤 2.5	4～5kg	播種後発芽前
トレファノサイド乳剤	200～300ml	播種後発芽前
キックボクサー細粒剤 F	3～4kg	播種後発芽前(砂土を除く)
ボクサー	400～500ml	播種後～麦2葉期

(使用上の注意)

- ・ 表面散播した圃場には使用しないでください。
- ・ 散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を控えましょう。

表4 目標苗立数と播種量の目安

播種期	目標苗立数(本/㎡)	播種量の目安(10a 当たり)	
		ドリル播き	表面散播
9月25～30日	140	6.0 kg	6.5 kg
10月上旬	150	6.5 kg	7.0 kg
10月中旬	200	8.5 kg	9.0 kg

大豆の収穫作業等との競合が予想される場合は、大麦の播種が遅れないよう事前に調整しましょう。